

令和3年度

事務事業評価シート

【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	07	01	02	174040	商店街賑わいづくり事業費	
総合計画	分野	01	しごと	政策	03 商業の振興	
	施策	02	商店街の再生			
目的	商店街の賑わい創出のため、中小企業等の支援団体への補助、賑わいづくりイベント補助、新規出店者の創業支援等を行う。					
対象	商業者、商店街団体等					
意図	商店街等のイベントや未利用店舗活用への支援により商店街の賑わい創出を図る					
事業概要	各種団体補助金・負担金 33,933千円 花巻商工会議所事業補助金、岩手県中小企業団体中央会補助金 商店街活性化イベント補助金 1,102千円 商店街団体等が実施する賑わいづくりイベント事業への補助 まちなか創業支援 591千円 中心市街地で未利用店舗等を活用して新たに創業する事業者への補助及び経営指導 エーデルワイス関連資料展示事業 297千円 エーデルワイス関連資料企画展示事前調査 まちの駅いしどりや酒蔵交流館の再整備（繰越明許費） 73,873千円 酒蔵交流館の解体設計・物置移設業務委託・案内表示板改修					
市民参加の有無						
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託
活動指標		単位	区分	R02	R03	R04
1	商店街活性化イベント実施件数	件	計画	13.00	13.00	
			実績	3.00	3.00	
2			計画			
			実績			
3			計画			
			実績			
成果指標		単位	区分	R02	R03	R04
1	商店街活性化イベント来街者数	人	目標	92,000.00	90,000.00	
			実績	5,985.00	5,977.00	
2	まちなか創業支援補助金利用件数	件	目標	5.00	5.00	
			実績	4.00	1.00	
3			目標			
			実績			
成果指標の達成度		目標値より高い		概ね目標値どおり		目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
新型コロナウイルス感染症の拡大により、時期によって商業団体によるイベントが開催困難となった。中心市街地での空き店舗を活用した新規創業の相談は複数件あったが、事業計画の作成に時間を要し事業に着手できなかったものや事業者の経営判断等の理由により、補助事業の活用に至らなかったケースがあり、まちなか創業補助金の利用件数は1件にとどまったところ。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	郊外大型店出店により市全体の買い物利便性が向上する反面、既存商店街の競争力や商業機能は低下しており、個店の商業力の強化や中心商店街の賑わいづくりが喫緊の課題である。
	妥当である	
有効性	見直し余地がある	
	妥当でない	
効率性	成果の向上余地	商店街の組織力、未利用店舗オーナーの意識改革、事業承継、経営力向上などにより、事業効果の向上余地はあると考えられる。
	向上余地がある	
公平性	向上余地がない	
	事業費・人件費の削減余地	商業団体・新規出店者等への補助金は、現行以上に削減するのはインセンティブとして弱過ぎるため削減余地なし。
総合評価	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
今年度の振り返り	どちらも削減余地がない	
	受益と負担の適正化余地	中心市街地を対象とした以外には、受益機会は公平であり、商業者や団体等の自己負担も一定程度必要であり、適正である。
次年度に向けて	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
適正である		
新型コロナウイルス感染症の拡大により外出自粛やイベント中止等が相次ぎ、集客事業の展開に苦慮した。「密」を避け感染防止を施したうえで多角的視点で事業実施を検討する必要がある。まちなか創業支援補助金の支援対象である空き店舗の活用に限らず、新築での新規創業が複数みられ、これまでの継続的な支援から、新規創業に関する機運が醸成されつつある。		
オンラインイベントが普及しつつあり、また現地型のイベントや販売機会が見直されてきたことから、感染防止策を工夫・徹底しながら周知PR手法も含め商業の魅力の伝え方や実施手法を工夫していく。		

令和3年度

事務事業評価シート

【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	07	01	02	174050	商店街利便性向上事業費	
総合計画	分野	01	しごと	政策	03 商業の振興	
	施策	02	商店街の再生			
目的	商店街の賑わい創出と来街者の利便性、安全性、快適性を向上させるため、駐車場確保や商店街共同施設の補修を支援する。					
対象	来街者、商店街団体等					
意図	便利施設を開設するとともに商店街共同施設の補修等の支援を行い、多くの人に商店街を利用してもらう					
事業概要	市民ふれあい広場運営 8,977千円 中心市街地での買い物客が休憩等に利用する便利施設の運営 小さな百貨店ぶらっとの運営に必要な人件費等を補助 公共駐車場確保対策 1,582千円 大迫地区内の中心商店街来街者用駐車場を確保					
市民参画の有無	対象外					
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託
活動指標		単位	区分	R02	R03	R04
1	市民ふれあい広場設置数	箇所	計画	5.00	5.00	
			実績	5.00	5.00	
2			計画			
			実績			
3			計画			
			実績			
成果指標		単位	区分	R02	R03	R04
1	市街地における一日あたりの歩行者数【商工会議所】	人	目標	6,000.00	6,000.00	
			実績	5,432.00	4,888.00	
2			目標			
			実績			
3			目標			
			実績			
成果指標の達成度		目標値より高い		概ね目標値どおり		目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
市街地における1日あたりの歩行者数は、例年花巻商工会議所が実施した交通量調査の結果を参照しており、今年度は昨年度よりも歩行者数は減少しているが、調査を実施した2日も悪天候であったことが要因と考えられる。新型コロナウイルス感染症拡大以前の昨年並みの歩行者数を維持しており、コロナ禍による外出自粛の傾向が強まる中、目標値には達していないものの一定の効果が得られているものと思われる。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	公共駐車場確保対策は未利用市有地の活用などを検討しなければならない。
	妥当である 見直し余地がある 妥当でない	多くの商店街で施設の老朽化が進んでおり、来街者の安全・安心確保の観点からも公共関与は必要と考える。
有効性	成果の向上余地	商店街の利便性や安全・安心なまちづくりなど、商店街の取り組み如何でまだまだ向上余地はあると思われるが、商店街自体の資金や人的な面で体力不足に陥っている現状の克服も必要と思われる。
	向上余地がある 向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	便利施設の運営の費用負担は最小限である。
	事業費の削減余地がある 人件費の削減余地がある どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	受益機会は公平。 商店街共同施設改修事業は自己負担を要する。
	受益機会の見直し余地がある 費用負担の見直し余地がある 適正である	
総合評価	今年度の振り返り	新型コロナウイルス感染症の影響が長期化し、感染者数の増減によって外出自粛の傾向が強まる中、市民ふれあい広場の設置などにより、市街地の歩行者数にも表れるとおり、一定数来街者確保に寄与しているものと思われる。
	次年度に向けて	引き続き、商店街の利便性向上、商店街利用者の安心・安全の確保に努めていく。

令和3年度
事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	07	01	02	174060	商店街景観形成事業費	
総合計画	分野	01	しごと	政策	03 商業の振興	
	施策	02	商店街の再生			
目的	中心商店街の賑わい創出のため、地域の特色や歴史、先人を活かした商店街づくりと街なか誘導を支援する。					
対象	商業者、商店街団体等					
意図	魅力ある商店街が形成され、商店街の来街者が増え、賑わいの創出を図る					
事業概要	中心商店街顔づくり交付金 6,000千円 大迫、石鳥谷、東和それぞれの中心商店街の顔づくりに取り組む商店街等への支援					
市民参画の有無	対象外					
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託
活動指標		単位	区分	R02	R03	R04
1	顔づくり交付金交付団体数	件	計画	3.00	3.00	
			実績	3.00	3.00	
2			計画			
			実績			
3			計画			
			実績			
成果指標		単位	区分	R02	R03	R04
1	市街地における一日あたりの歩行者数【商工会議所】	人	目標	6,000.00	6,000.00	
			実績	5,432.00	4,888.00	
2			目標			
			実績			
3			目標			
			実績			
成果指標の達成度	目標値より高い	概ね目標値どおり	目標値より低い			

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
市街地における1日あたりの歩行者数は、例年花巻商工会議所が実施した交通量調査の結果を参照しており、今年度は昨年度よりも歩行者数は減少しているが、調査を実施した2日とも悪天候であったことが要因と考えられる。新型コロナウイルス感染症拡大以前の昨年並みの歩行者数を維持しており、コロナ禍による外出自粛の傾向が強まる中、目標値には達していないものの一定の効果が得られているものと思われる。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	生活拠点機能を維持するためには、地域特性を生かした中心商店街景観・都市機能・活力の保持が重要であり、商店街団体等の意思に沿って地元主体で実施することが基本としながら、行政の方向性とも連携し、双方が協調し進める必要がある。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	「顔」の意味・方向性について、地元商店街等と行政が完全に同じ方向を向いているとは言い難い。なお継続的な議論を要する。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	現状では交付金縮小がそのまま事業縮小（廃止）に繋がる。将来にわたり残していくべき「顔」と、顔づくり事業のあり方を合わせて議論する必要がある。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	政策意図として地域を限定した交付金である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
	適正である	
総合評価	今年度の振り返り	新型コロナウイルス感染症の拡大により外出自粛やイベント中止等が相次ぎ、地域の「顔」が見える事業の展開に苦慮した。「密」を避け感染防止を施したうえで事業実施を検討する必要がある。
	次年度に向けて	オンラインイベントが普及しつつあり、また現地型のイベントや交流機会が見直されてきたことから、感染防止策を工夫・徹底しながら周知PR手法も含め「顔」の見せ方や実施手法を工夫していく。

令和3年度

事務事業評価シート

【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名
01	07	01	02	174250	中小企業持続支援事業費
総合計画	分野	01	しごと	政策	03 商業の振興
	施策	02	商店街の再生		
目的	新型コロナウイルス感染症拡大により特に大きな影響を受けている市内事業者に対し、事業継続の下支えを行う。				
対象	市内中小企業者				
意図	事業継続を下支えする				
事業概要	中小企業持続支援事業（地代・家賃補助） 83,619千円 中小企業売上アップ応援事業 191,712千円 中小企業売上アップ応援事業（繰越明許費） 76,457千円 中小企業経営支援事業 91,286千円 月次支援金申請サポート事業 5,554千円 飲食店等緊急経営支援事業 27,238千円 事業復活支援金申請サポート事業 2,157千円 花巻市いわて飲食店安心認証店舗奨励金 30,665千円				
市民参加の有無	対象外				
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成
活動指標		単位	区分	R02	R03
1			計画		
			実績		
2			計画		
			実績		
3			計画		
			実績		
成果指標		単位	区分	R02	R03
1			目標		
			実績		
2			目標		
			実績		
3			目標		
			実績		
成果指標の達成度	-	目標値より高い	-	概ね目標値どおり	-
				目標値より低い	

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
新型コロナウイルス感染症の影響を受けている中小企業の支援に特化した事業であり、成果指標は設定しないこととする。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	新型コロナウイルス感染症の影響により売上が減少している事業者に対する経営継続支援及び消費喚起策については、多額の財源を必要とするため、公共関与が妥当である。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	キャッシュレス決済を活用した消費喚起策については、加盟店や利用者を増やすことが必須であり、未だ活用していない事業者や市民への周知が求められる。また、「いわて飲食店安心認証」の取得促進に向けさらなるPRが必要である。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	商品券を活用した消費喚起策に比べ、印刷代や換金作業などの事務が大きく削減されている。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	キャッシュレス決済を活用した消費喚起策については、対象がスマートフォンを所有している方に限られる反面、新型コロナウイルス感染症による新しい生活様式としてもキャッシュレス決済の取り組みが推奨されている。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	消費喚起策のほか、経営支援にむけた各種支援金の給付や国給付金にかかるオンライン申請のサポートなど、多岐にわたり中小企業の支援に努め、中小企業者の事業継続に一定の効果があったと認められる。一方、感染拡大により人の流れが停滞した場面では飲食業を中心に売り上げが伸びないなど、実施時期により十分な効果を発揮できない局面があった。
	次年度に向けて	感染拡大の防止と消費拡大の双方に配慮した施策展開をさらに検討していく。

令和3年度

事務事業評価シート

【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	08	04	01	184250	リノベーションまちづくり推進事業費	
総合計画	分野	01	しごと	政策	03 商業の振興	
	施策	02	商店街の再生			
目的	様々な人が集える賑わいある都市づくりに向け、不動産オーナーの意識啓発を図ると同時に遊休不動産を活用した新たなビジネスとまちの新たな担い手を育成し、魅力的な都市型産業を集積する。					
対象	中心市街地の不動産オーナー、民間事業者、地域団体、行政					
意図	中心市街地における公共、民間の遊休不動産を、民間主導・行政参加で次々に活用、新たな産業を創造し中心市街地の価値を向上させることにより、持続的都市経営を実現する。					
事業概要	公共空間活用社会実験事業 56千円					
市民参加の有無	対象外					
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託
活動指標		単位	区分	R02	R03	R04
1	不動産オーナー面談	人	計画	10.00	10.00	
			実績	2.00	3.00	
2	リノベーションまちづくりレクチャー	回	計画	2.00	2.00	
			実績	3.00	0.00	
3			計画			
			実績			
成果指標		単位	区分	R02	R03	R04
1	シンポジウム等参加者	人	目標	500.00	100.00	
			実績	170.00	55.00	
2	リノベーション事業化案件	件	目標	3.00	1.00	
			実績	2.00	0.00	
3			目標			
			実績			
成果指標の達成度			目標値より高い		概ね目標値どおり	目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
道路等の公共空間を利用した社会実験を予定していたもののコロナ禍の収束が見込めず大規模なイベント等の実施ができず未達成となった。代替策として、中央広場のイルミネーション時のキッチンカーの呼び込みを実施した。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	まちづくりの方向性設定、公共・民間がフラットに議論する場の設定、民間事業者が活動しやすい環境整備、地域最大の不動産オーナーであること等、行政の役割は明確。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	あらゆる資源を活用し、新たな担い手の育成と産業集積を同時に起こすことで成果が増大する。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	民間主導によるプロジェクトづくりが基本であり、個別事業に対する新たな補助制度等は想定していない。意欲的な事業者にリノベーションまちづくりへの普及参画を促すための最低限の経費。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	自らリスクを負う者が担い手であり、税の再分配、公平なサービスを提供する受益者でなく、パートナーという関係性である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
	適正である	
総合評価	今年度の振り返り	公共空間の利活用のため社会実験を予定していたがコロナ禍が収束せず実施を見合わせることにし、代替策として小規模な公共空間活用の社会実験を実施した。新規の中央広場利用や集客もあり一定程度の効果が見られた。
	次年度に向けて	リノベーションまちづくりの推進のため、物件オーナーへの働きかけや公共空間の利活用を促すための意識啓発に取り組む。コロナ禍の状況を踏まえて公共空間を活用したイベント等の実施を支援する。